

Green Brave

#52 埼玉 GB GR Supra GT4

2024年11月16日(土) ~17日

BRIDGESTONE

Super Taikyu

Japanese Endurance Race

ENEOS

ENEOS スーパー耐久シリーズ 2024 Empowered by BRIDGESTONE

第7戦 S耐ファイナル富士(4時間レース) 富士スピードウェイ(静岡県小山町)

■ ■ ■ ■ 荒れたレースで7位入賞を記録し有終の美 ■ ■ ■ ■

第7戦のレース時間は4時間。Dドライバー、野中選手が海外テスト参加のため欠場しており、第2戦に参加した荒川選手が出場しています。Green Brave はすでに2年連続のST-Zチャンピオンを決めています。目標は優勝です。

予選日(土曜日)の天候は曇り。Aドライバーの予選は13時40分から行われ、山崎選手は4周目に1分47秒933をマーク。4位につけました。Bドライバーの予選は1時間後の14時40分から行われ、吉田選手は雨が降り出す微妙なコンディションの中、4周目に1分47秒575をマーク。10位で予選を終えました。両ドライバーの合算タイムにより、正式結果は6位。今回もGR Supraにはさまざまな性能調整が加えられており、パフォーマンス不足が否めない状況ですが、まずまずの位置につけることができました。Cドライバー、服部選手とDドライバー、荒川麟選手は決勝ベースを想定した確認走行を実施。

決勝日(日曜日)の天候は晴。チームはジェントルマンドライバー、山崎選手をスタートドライバーに起用する4スティント作戦を立案。3回のピットイン義務があるため、Aドライバーの乗車時間をクリアした後、荒川、服部、吉田とつなぐ計画です。山崎選手がスタートドライバーを務めるのは初めてのことで、作戦の幅を広げるための意欲的なトライ。12時29分、4時間の決勝レースがスタート。山崎選手は1つ順位を下げ、7位で1周目を終了。混戦の中、接触する場面もあり、徐々にポジションを下げていきます。12周目、9位走行中にST-3クラスのクラッシュが発生。すぐにFCY(フルコースイロー)が導入され、翌周からSC(セーフティカー)に切り替わりますが、ガードレールが大きく破損しており、17周目に赤旗中断となります。

約50分の赤旗中断の後、14時20分からレース再開。2周のSCランを行ったので、19周目に入っています。山崎選手はAドライバーの乗車義務時間をクリアしており、ピットロードへ。服部選手に交代し、タイヤ交換と給油を行いピットアウトします。3回のピットイン義務を素早く消化するため、服部選手は翌周にピットへ。今度は荒川選手に交代し、短い給油のみでピットアウトします。21周終了時の荒川選手の順位は13位(最後尾)。上位には1回もピットインを行っていないチームやAドライバーが乗っていないチームがあり、順位が大きく変わる可能性があります。荒川選手は上位進出を目指してプッシュするも、上位のクルマとは30秒ほどの差がついており、追いつくことができません。スタートから2時間半が経過した38周目、今度はST-Zクラスのクラッシュが発生。39周目に赤旗が提示され、再び中断となります。最初の赤旗時と同じく、ガードレールを大きく損傷しており、修理に時間を要する状況。約1時間の中断の後、残り約30分でレース再開となります。



荒川選手の周回数は41周目、順位は11位です。Aドライバーの乗車義務時間は最小限に変更され、さらにピットイン義務も2回に減少。積極的なピット戦略のアドバンテージがなくなった状況ですが、たくさんのライバルがピットイン義務をクリアしようとピットロードになだれこんでおり、荒川選手の順位が上がっていきます。42周目に9位、さらに残り10分の時点で8位を走行。終了直前には#25Zの前に出ることに成功し、7位でチェッカーを受けました。目標の優勝を記録することはできなかったものの、ベストを尽くし、笑顔で締めくくることができました。

決勝結果 (ST-Zクラス)

#52 埼玉 GB GR Supra GT4

(山崎 学 / 吉田 広樹 / 服部 尚貴 / 荒川 麟)

決勝: 7位 (54周、4時間02分48秒104)

予選: 6位 (合算タイム: 3分35秒508)



DRIVERS VOICE

山崎 学選手

初めてスタートを任せてもらいました。頑張ってみるつもりでいこうと思ったのですが、ちょっとずつ離れてしまい、苦しい展開になりました。クルマの状態が苦しくても、レースが始まってしまえばついていきたいという思いはあったので、悔しかったですね。今年は取れそうなレースが取れなかったり、性能調整が思いのほか、苦しかったりとか、去年とは違う苦しみを味わいました。その中でも、チーム力で着実にポイントを獲得したことが2年連続のチャンピオンにつながったと思います。

吉田広樹選手

当初の順番では最後に乗る予定でした。展開が読めない中、何ができるかをみんなで考えていました。赤旗の度に规则的な状況が変わったのですが、それに合わせてみんなのできることをやったのでベストは尽くせたと思います。今年も現地やライブ配信、ラジオを通じて、いろいろな形で応援してくれて、無事チャンピオンをとれたので本当に良かったと思います。ただ、自分たちが改善していかなければいけない部分もいっぱいあったので、そこをしっかりと改善し、来年に挑めればと思います。

服部尚貴選手

うちにとってレースの流れが決めて良いものではありませんでした。2回も赤旗が入るのは珍しいというか、やっぱりこれだけの台数が走っていると、スピード差もできるので、本当に気をつけて走らないといけません。今シーズンの最終戦、決して気持ちよく終われたわけじゃないですけど、うちらとしてはその前にチャンピオンを決められたので、ある意味、余裕をもってみんなで戦えたと思います。ただ、来年に向けての課題はいろいろあると思うので、強くなって戻ってきたいと思います。

荒川 麟手

最後のステント、頑張りました。乗っている感じは全然悪くはなかったのですが、まわりとタイムを比べると遅れてしまっているという感じでした。自分たちができる中でベストを尽くせたと思います。赤旗中断がありました。レースが始まってからずっとピットで待っていたので、どちらかという気持ち的に疲れました。今年2つのレースに参加させてもらったのですが、みんながチームのことを考えながらレースを戦っていて、それがシリーズチャンピオンにつながっているのかなと思いました。

ST-Z クラス決勝結果

順位	チーム	周回数
1位	2W Yamaguchi GR Supra GT4 EVO (トヨタ GR Supra)	55周
2位	raffinee 日産メカニクチャレンジ Z NISMO GT4 (日産 Z NISMO GT4)	54周
3位	Hitotsuyama Mercedes-AMG GT4 (メルセデス AMG GT4)	54周
4位	NANIWA DENSO IMPUL Z (日産 Z NISMO GT4)	54周
5位	マッハ車検 GR Supra GT4 EVO (トヨタ GR Supra)	54周
6位	シェイドレーシング GR SUPRA GT4 EVO (トヨタ GR Supra)	54周
7位	埼玉 GB GR Supra GT4 (トヨタ GR Supra)	54周

出走 13台 トップ7まで

ST-Z クラスポイントランキング

順位	車番	チーム	ポイント
1位	52	埼玉 Green Brave	●
2位	22	Porsche Team EBI	●
3位	885	SHADE RACING	●
4位	26	TEAM ZEROONE	●
5位	26	TEAM ZEROONE	●
6位	34	TECHNO FIRST	●

上位6位まで

Green Brave PARTNERS



赤城車体工業株式会社
akagi body industry Co.,Ltd.
http://akagibody.co.jp



株式会社アース・コーポレーション



株式会社アルシエ



株式会社 FM NACK5



株式会社
岡崎巧芸
株式会社岡崎巧芸



株式会社カーグラス・JP



埼玉スリーボンド株式会社



株式会社三和広告社



JU 埼玉オートオークション株式会社



株式会社西武ライオンズ



ティーズ・ワークス



株式会社デンソーソリューション



東京麒麟ビバレッジサービス株式会社



トヨタホーム東京株式会社



トヨタモビリティパーツ株式会社 埼玉支社



富士フイルムビジネスソリューションジャパン株式会社



有限会社 MY CARS



マックメカニクスツールズ株式会社



丸和工業株式会社



Mechanix Wear LLC



株式会社リビコー